

## 大学生の視点に立った教育環境についての検討 ～メトロポリア応用科学大学(フィンランド)の新キャンパス視察より～

松浦幸恵, 岡久玲子  
徳島大学大学院医歯薬学研究部

### 1. はじめに

徳島大学医学部は、2011年より社会福祉先進国である北欧フィンランドにあるメトロポリア応用科学大学との間に学部間学術交流協定を締結している。その後、両校の間で、看護学部学生の交換留学生の相互派遣が行われてきた。また、徳島大学の医学部・歯学部との間のパートナーシップ契約に基づき、フィンランド国立教育庁により助成を受けた“Interdisciplinary Education in Nursing and Oral Health Care of Elderly”プロジェクトが実施されるなど、活発な教員や学生の交流が行われてきた。

大学は多くのキャンパスに分かれていたが、現在は4つのキャンパスへの統合に向けた準備が進められている。そのような中、看護学部は既に新キャンパスに移転したことを受け、新キャンパスの視察を行った。

フィンランドはOECD(経済協力開発機構)の学習到達度調査(PISA)<sup>1)</sup>においては常にトップレベルの、世界有数の教育先進国である。新キャンパスの視察を通し、学生が学習している環境を知り、学生にとって学習効果のある教育環境について検討をする。

### 2. 視察の概要

- 1) 視察日：2019年9月3日
- 2) 視察先：フィンランド メトロポリア応用科学大学  
Metropolia Myllypuro Campus
- 3) 視察者：本研究者2名
- 4) 倫理的配慮：視察に当たり、案内役の教員に対し写真撮影の希望を伝え、学生や教員等は撮影しないということで写真撮影の許可を得た。

### 3. 結果

#### 1) 訪問先概要

Metropolia Myllypuro Campus (図1) は、フィンランドの首都ヘルシンキ市にあるヘルシンキ中央駅より、地下鉄で16分乗車したMyllypuro駅の前に位置する<sup>2)</sup>。



図1 大学外観 (Myllypuro Campus)

#### 2) 新校舎の様子 (図2)

キャンパス全体としては未完成ではあるが、廊下で繋がっているA～Dの4校舎のうちA校舎に、看護学部、エンジニア学部等が既に移動している。他学部の3校舎への移動は、2020年初旬を予定している。

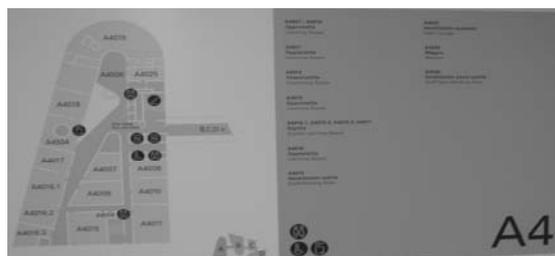


図2 各階案内板 (校舎レイアウト)

校舎中心部には1～6階まで続く大きな吹き抜けがあった。校舎にはそれぞれシンボルカラーがあり、A校舎は黄色と白色で、案内板、廊下、壁、カーテン、床、椅子等いたるところに、黄色が使われていた(図3)。



図3 シンボルカラーの使用された階段 (左) と家具 (右)

エレベーターで行き先階に行く時、階段ホールから各階に入る時には、IDによる操作が必要であった。

トイレは全て男女共用であり、トイレの中に手洗い・手拭きペーパーが設置されていた(図4)。



図4 トイレ

各階の廊下やコーナーには、様々なタイプの机と椅子がいくつも置かれ、学生や教員が、話し合い・自己学習・休憩などに使用する(図5)。



図5 廊下等に置かれた家具

教室は、ガラス張りや窓が多く、黄色のカーテンがかけられている(図6)。教室には、座り心地のよいソファ、クッション性のよい丸イス、ボール型イスなど様々なタイプの椅子や、高さの異なる机が設置されており、学生が自由に選択することができる。



図6 教室(左)と教室内の様々なタイプの椅子や机(右)

学生IDによる学生用のパソコン貸し出し機、ゲーム機、無料の絆創膏なども設置されていた(図7)。



図7 貸出パソコン(左)とゲーム機(右)

#### 4. 考察

視察した大学新校舎は郊外にあり、窓からは森林が一面に見渡せる静かな環境である。校舎内は、広い廊下や階段、開放的な吹き抜けと共に、至る所にシンボルカラーの黄色が多く使用され、大変明るい印象を受けた。また、廊下や共有スペースに置かれた様々なタイプの椅子、景色が見えるように窓辺に置かれた椅子、ゲーム機など、学生がリラックスできる環境であるとともに、学生間でコミュニケーションを取りやすい場ともなっているように考える。

教室は、窓やガラス張りが多く開放的であった。さらに、ソファ、丸椅子、ボール型椅子等、学生が椅子や机など、自分の体格や体調・気分で自由を選ぶことができるなど、学生主体の環境が用意されていると考える。

また、パソコン貸し出し機、インターネットシステムによる小会議スペースの予約等、必要時に必要な設備が容易に利用できる環境が用意されていた。さらに、セキュリティやジェンダーフリーに配慮した構造や設備となっており、学生の安全性や多様性を尊重した環境であった。

学生の意見が多く取り入れられているという学内は、従来の「学校」というイメージとは異なる印象を受けた。学生の視点に立ったこれらの環境が、学生の学習意欲を向上させ、現在の教育先進国を構築する理由の一つであると考えた。また、大学の構造や設備を変えるのは容易なことではないが、学生にとって居心地のよい環境を考え、柔軟性を持ち工夫していくことが求められていると考える。

#### 文献

- 1) 文部科学省 国立教育政策研究所. OECD 生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Assessment ～ 2015 年調査国際結果の要約～, 2016. [http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2015/03\\_result.pdf](http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2015/03_result.pdf) (アクセス日: 2019/10/2)
- 2) Metropolia University. <https://www.metropolia.fi/en/about-us/campuses/> (アクセス日: 2019/10/3)